

科目名	社会調査法Ⅱ	
担当者	河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	安易な調査が多いが、社会調査の正しい知識と技法を習得しておかないと、有効有益な調査にすることは困難である。「社会調査法Ⅰ」の発展科目として、量的調査の方法による調査の設計と企画、問題意識を調査票の形に仕上げるまでの原理と技法を学ぶ。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全数調査・標本調査それぞれの意義と目的を説明できる。 ・「誤差」ということを理解し、標本誤差の原理を確実に理解できる。 ・誤差の計算ができ、計算結果の意味を説明できる。 ・調査問題から調査票作成までの過程を調査の理論にそって理解し、調査票を作成できる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 量的調査における「してはいけない調査」「失敗した調査」 (2) 調査目的と調査方法の決定 (3) 母集団と標本 (4) 全数調査と標本調査 (5) サンプリングの考え方とその方法 (6) 誤差—非標本誤差と標本誤差 (7) 標本誤差の原理と計算 (8) 必要な標本数の考え方と計算 (9) 様々な調査技法のどれを採用するか (10) 仮説検証型調査における調査問題の設定から調査項目へのプロセス (11) 概念の操作化・仮説構成、変数の指標化、尺度 (12) 質問文・回答選択肢の作り方とチェックポイント (13) 質問文・回答選択肢を作ってみる (14) 調査票の構成 (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	教科書の指示部分を読んでおくこと。
	事後学習	復習を兼ねて、毎回、次回提出の課題を提示する。
使用教材・参考文献	<p>【教】大谷信介他『社会調査へのアプローチ—論理と方法(第2版)』ミネルヴァ書房、2004年。社会調査法Ⅰでも使用する教科書である。</p> <p>【参】原純輔・海野道郎『社会調査演習第2版』東京大学出版会、2004年 社会調査士資格認定機構編『社会と調査』第1号、有斐閣、2008年</p>	
成績評価方法と基準	<p><方法>課題の提出20%・定期筆記試験80%</p> <p><基準>科目目標の到達を重視する。到達していないものは不合格とする。</p>	
備考	<p>「社会調査士資格」取得のための必修科目でもある。</p> <p>受講者は、前期科目「社会調査法Ⅰ」を受講済み(単位習得は問わない)であること。</p>	